

教育改善 PDCA 進捗シート-06

課題名称	研究室配属方法 2010
起案者	渡邊・李

※原則として起案者が本シートを継続的に記録，学科ホームページにUPする。

課題の概要（改善すべきとする背景と目的）
<p>仮配属から本配属で学生数が減る事態は改善されたが（2009年）、留年生の割合が多い研究室が生じている事態はそのままである。留年生が特定の研究室に偏らないようにする。</p>

Phase	議論・措置の内容	議論の経過（年月 委員会 等）	次回予定
<b>P</b>	<p>■留年生枠を設けて、全研究室に均等に配属されるような研究室配属方法にする。</p> <p>研究室の学生数は教員一人あたりの学生数が均等になるようにする。</p>	<p>2010年5月（教室会議）</p> <p>2010年6月（教室会議）</p> <p>2010年7月（教室会議）</p>	
<b>D</b>	<p>■仮配属対象者を、留年生、成績上位者、その他の学生に分けて、順に研究室配属を実施。</p>	<p>2010年10月（教室会議）</p> <p>2010年10月（3年担任）</p>	2010年10月
<b>C</b>	<p>■研究室配属方法に基づいて本配属を実施した。留年生の数に関する研究室格差は是正された。</p> <p>■留学生の集中が改善されたことが確認できたため、今後も引き続き本研究室配属方法を継続することが確認され、WGは完了とした。</p>	<p>2011年4月（教室会議）</p> <p>2012年3月（教室会議）</p>	<p>2011年4月</p> <p>【WG完了】</p>
<b>A</b>	<p>■4年進級時になって卒研究生が減ることもなく、留年生が偏ることもない。</p> <p>■3年前期時点で進級ギリギリだった学生の4年進級率が上昇したようである。</p>	<p>2011年4月（教室会議）</p>	2011年4月